

千秀だより

横浜市立千秀小学校

9月号

平成27年(2015).8.28



まちに暮らす子ども達を見て

校長 市川幸男

学校に子どもたちの元気な姿がもどってきました。学校から家庭へと生活の場が移り、子どもたちにとって、「自由に活動する時間」を、計画的に過ごすことができたことと思います。保護者の皆様、地域の皆様のおかげで、夏季休業中は大きなけがや事故もなく、安全に過ごせたことに感謝いたします。

まだまだ暑い日が続くようですが、日が落ちるとともに日中の暑さも薄れ、気温が下がるなど、健康管理がむずかしい時期にもなります。体調を整えて、前期のまとめが順調に進められるように、ご家庭での協力をよろしくお願いします。

40日間に及ぶ長期の休み中、私は学区内のいろいろな催し物に参加させていただきました。長尾台や田谷の盆踊り、農協の納涼大会、等々、それぞれに地域特有の趣向があり、参加していて、とても楽しい時間を過ごすことができました。それにもまして、参加している子ども達のとびきりの笑顔に会えたことが嬉しかったです。盆踊り会場で、きれいに着飾った浴衣で踊りの列に参加する子ども達、またそれを横目にしつつも、美味しそうにお菓子をほおぼっている子。中には、櫓に乗って太鼓をたたいている子や、出店のお手伝いをして、商品を笑顔と共に手渡すなど、催事のお手伝いをする子もいました。こうやって子ども達が地域に溶け込み、地域の一員としての意識を高めていくのだと感心することも多かったです。学校に戻ってきた子ども達には、夏の思い出を話しかけ、町や地域が子ども達のために、いろいろな働きかけをしてくれていること、そして自分も町や地域の一員であることを振り返らせていきたいと思います。そんなことを考えていると、先日ある会合で、子ども達の確かな学力を育成するためには、まちで暮らす子ども達の姿を、しっかりと見つめ、小学校も中学校も、共通した子ども像を持つことが大切である。また、その姿を基盤として育成の計画を立てるという旨の提案がありました。子ども達のもつ文化や価値観、マナーや所作など、日々の生活の積み重ねから形づくられていくものと思います。そう考えると千秀小学校区の子ども達は、地域の方々の温かい目で見守られていて、本当に幸せだと思います。本校の子ども達の良さである「明るさ」「素直さ」「頑張る心」などまさに、地域のもつ特性に支えられて形成されたものだと思います。これからも多くの地域の催事が予定されています。学校も今まで以上に、町に出て、子ども達とともに楽しんで参りたいと存じます。

さて冒頭に前期のまとめと記載しましたが、この9月から10月にかけては、まさに前期のまとめの時期となります。竹が節を区切りとして積み重ね、伸びていくように、年度の中間にあたるこの時期に区切りを設け、それまでの自分の取り組みを振り返るとともに、年度後半の自分の在り方を展望して行かれるよう指導して参ります。4～5年生の宿泊体験学習や6年生の修学旅行など、まとめの時期に大きな行事があったり、5連休があったりと慌ただしいところではありますが、そんな中でも、しっかりとまとめを進めていかれるようにしたいと存じます。

付記、この夏休み中に留守番電話機能が設置されました。今後、学校休業日はもちろんのこと、例えば、平日についても午後7時以降は留守番電話とするなど、その活用の導入を図って参りたいと考えています。具体化致しましたら、あらためて連絡致しますので、よろしくご理解いただけますようお願い致します。